

52年ぶりに再発見され新たに福田美術館のコレクションに加わった 長沢芦雪の幻の名作「大黒天図」が福田美術館でお披露目

～美術史学者の辻惟雄氏も「芦雪の画業ピークの時の作品」とコメント～



福田美術館、嵯峨嵐山文華館（京都府右京区嵯峨嵐山）は、2023年10月18日(水)から2024年1月8日（月・祝）まで二館合同で「ゼロからわかる江戸絵画ーあ！若冲、お！北斎、わあ！芦雪ー」を開催します。開催に先立ち、本展の見どころを解説する発表会見を8月29日（火）午後より福田美術館にて実施いたしました。発表会では、本展の目玉となる日本画界の巨匠・長沢芦雪の作品で、**52年ぶりに再発見された「大黒天図」が報道陣にお披露目されました。**歴史的にも美術史的にも重要な出来事となったこの再発見に合わせ、お話をうかがった美術史研究家の辻惟雄(つじのぶお)氏は、本作について「芦雪の大変なエネルギーの発散、ピークの時の作品ではないか」とコメント。福田美術館 学芸課長の岡田秀之は、「長年探していた作品だけに、目の前に現れた時は感動した。画面いっぱい使った構図は大変インパクトがある」とコメントしました。

本作品は、10月18日（水）より福田美術館で初公開されます。

また、**会場で上映した辻惟雄氏のインタビュー動画は福田美術館公式YouTubeでもご確認頂けます。**<https://youtu.be/0qGK1RH0S3s>

幻の作品「大黒天図」とは

『蘆雪名画選』（恩賜京都博物館編、1937年）に掲載され、その後、「近世異端の芸術ー若冲・蕭白・芦雪」展(新宿・小田急百貨店、1971年)で展示された後行方が分からなくなっていたものです。

本作品は辻惟雄氏が『奇想の系譜』の中で取り上げた代表作の一つで、研究者だけでなく一般読者にも知られていた作品です。和歌山県田辺市の旧家に伝わったもので、芦雪が和歌山県に滞在した天明6年（1786）10月頃から翌7年2月の間に描いたとされます。サイズは同時期に描いた「寒山拾得図」（田辺市・高山寺）とほぼ同じサイズの縦164.2cm×横98.6cmで、和歌山滞在中に描いた作品の中では最大級の掛け軸です。

「大黒天図」 作品データ

作品名：大黒天図
作 者：長沢芦雪
制作年：天明6年（1786）～天明7年（1787）
サイズ：縦164.2cm×縦98.6cm
材 質：紙本墨画 軸装1点
所 蔵：福田美術館

長沢芦雪…宝暦4年（1754年）－寛政11年（1799年）
丹波国篠山藩（現・兵庫県）の武士の家に生まれる。
円山応挙に師事し、初期は応挙の作風に倣った作品も
見られるが、大胆な構図、斬新なクローズアップを用
い、奇抜で機知に富んだ画風を展開した。
辻惟雄著「奇想の系譜」で取り上げられた画家の1人。

平面的に見える輪郭線に、
芦雪作品の特徴が表れている



真正面を向いた
シンメトリーな顔の
不思議なインパクト
に魅了される

大黒天の大きさを
感じさせる空間の
表現

小さなネズミが
生き生きと描かれている

「ゼロからわかる江戸絵画 —あ！若冲、お！北斎、わあ！芦雪—」概要

葛飾北斎の浮世絵、伊藤若冲の鶏、円山応挙や長沢芦雪の仔犬など、誰もが一度は目にしたことがある江戸絵画の優品計116点（福田美術館／78点・嵯峨嵐山文華館／38点）を、江戸絵画の基礎知識や鑑賞ポイントと共に紹介します。日本画に精通している方はもちろん、江戸絵画に触れたことのない方でも楽しんでいただける展覧会です。

| | |
|--------|---|
| ■ 企画展名 | 「ゼロからわかる江戸絵画—あ！若冲、お！北斎、わあ！芦雪—」 |
| ■ 会 期 | 2023年10月18日（水）～2024年1月8日（月・祝） <前期>10月18日（水）～12月4日（月） <後期>12月6日（水）～2024年1月8日（月・祝） |
| ■ 開館時間 | 10:00～17:00（最終入館 16:30） |
| ■ 休 館 | 12月5日（火）展示替え、年末年始：12月30日（土）～1月1日（月） |
| ■ 主 催 | 福田美術館、嵯峨嵐山文華館 |
| ■ H P | https://fukuda-art-museum.jp/exhibition/2023060128681 |

ゼロからわかる江戸絵画

あ！若冲 お！北斎 わあ！芦雪
Edo Paintings A to Z -
Jakuchu, Hokusai, Rosetsu and more



本件に関するお問合せ ※学芸員へのご取材希望も承ります。

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口、神 TEL：03-6264-2045 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp